

手 続 補 正 書

昭和60年10月8日

特許庁長官 宇賀道郎 殿

1. 事件の表示

昭和59年実用新案登録願第120926号

2. 考案の名称 防水カメラ

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

フリガナ 住所 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
フリガナ (100) キヤノン株式会社
氏名(名称) 代表者 賀 来 龍三郎

4. 代理人 〒105

住所 東京都港区虎ノ門3丁目18番12号
ステュディオ虎ノ門904号
氏名 (電話 03-434-5987)
(8737) 弁理士 田 村 光 治

5. 補正命令の日付 自 発

6. ~~補正により増加する発明の数~~

6. 補正の対象

明細書の考案の詳細な説明の欄

7. 補正の内容 別紙の通り

実開61-50947

万 式
審 査

881



- (1) 明細書第2頁第8行目に「生じる。」とある
を「生じることによる。」と補正する。

以 上

882

公開実用 昭和61-50947

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭61-50947

⑬ Int.Cl.⁴
G 03 B 17/08

識別記号 庁内整理番号
7610-2H

⑭ 公開 昭和61年(1986)4月5日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 防水カメラ

⑯ 実 願 昭59-120926

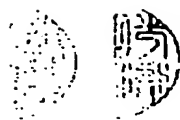
⑰ 出 願 昭59(1984)8月8日

⑱ 考 案 者 前 野 浩 川崎市高津区下野毛770番地 キヤノン株式会社玉川事業
所内

⑲ 考 案 者 玉 村 秀 雄 川崎市高津区下野毛770番地 キヤノン株式会社玉川事業
所内

⑳ 出 願 人 キヤノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号

㉑ 代 理 人 弁理士 田村 光治



明 細 書

1. 考案の名称

防水カメラ

2. 実用新案登録請求の範囲

- 1 防水構造を有するカメラにおいて、外周を形成する前カバーは、その一側端部の端面をほぼ平面とし、その内面側に電池室を設け、かつ該電池室の後方近傍に背蓋ヒンジ軸支持部を有するとともに該電池室と該ヒンジ軸支持部との間に後方縁となる壁を設けて成る防水カメラ。

3. 考案の詳細な説明

<産業上の利用分野>

本考案は、防水構造を施されたカメラ、特にその前カバーの背蓋ヒンジ軸支持側の構造に関するものである。

<従来技術>

従来より防水カメラの外装カバーは、防水箇所を減らすという目的のために槌状の前カバーと蓋状の背蓋より成立っている。

そして、防水カメラの背蓋を枢支するカメラ本



体側の支持構造は、第4図(a)に示すように前カバー1の背蓋ヒンジ軸支持部1bが前カバー側端部1aの外側に出張つて位置していた。これは前カバー1の型成形上の関係で、前カバー内の型を全て背蓋側の開口から抜こうとする場合に、前記支持部1bの出張りをなくして第4図(b)に示すようにすると、該側端部1aの肉厚が極端に厚くなり、成形時の肉ヒケが生じる。

＜考案が解決しようとする問題点＞

ところで、前述従来例のように防水カメラとしてヒンジ軸支持部が出張つていると、非常に持ちづらく、外観的にも大きくかつデザインの的にも良くないものであつた。

本考案は、前述従来例の欠点を除去し、前カバーの一側端部の端面をほぼ平面にし、背蓋ヒンジ軸支持部となる出つ張りをなくし、かつその肉厚を均一にして小形化できる防水カメラを提供することを目的とする。

＜問題点を解決するための手段＞

本考案は、防水カメラにおいて、カメラ本体の



外周を形成する前カバーは、その一側端部の端面を平面とし、その内面側に電池室を設け、かつ該電池室の後方近傍に背蓋ヒンジ軸支持部を有するとともに該電池室と該ヒンジ軸支持部との間に後方縁となる壁を設けて成るものである。

ここで、該前カバーの構造については、前述した第4図(b)に示すような前カバーにおいて厚肉部を均一肉厚にするために、製作に当り、破線部分を前カバー下部の型から肉を抜き取り、それによつて形成された穴を電池室として有効に利用したものに なつて いる。

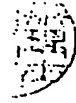
＜実施例＞

本考案を実施例について図面に基づいて説明する。

第1図は本考案に係る防水^{カメラ}の横断面図、第2図はその底面図、第3図は該防水カメラに用いる電池ホルダーの拡大斜視図である。



図において、カメラ本体を覆う前カバー11はその一側端部11aの端面がほぼ平面をなし、その内面側に電池室13が設けられ、かつ該電池室13



の後方近傍に背蓋 1 2 のヒンジ軸 12a を枢支するヒンジ軸支持部 11b を有するとともに該電池室 13 と該ヒンジ軸支持部 11b との間に後方縁となる壁 11c を設けたものである。

さらに、1 4 は内面側にパッキン 1 5 を嵌装した蓋 14a を一端に有する電池ホルダーで、該前カバー 1 1 の底面に設けた電池室開口部 11d から装着した際に、パッキン 1 5 により電池ホルダー 14 と前カバー 1 1 との間で水密を保証しており、また、1 6 は該前カバー 1 1 の後方内周縁部に充填したパッキンで、背蓋 1 2 の閉鎖時にカメラ内部と外部とを水密構造にするものである。

以上の構成によりカメラの外周を形成する前カバー 1 1 には背蓋ヒンジ軸支持部 11b が外方に突出しないととも内部スペースを有効に利用される。

なお、前述の実施例では電池室 1 3 に電池ホルダー 1 4 に収納した電池を装填するタイプであるが、このような電池ホルダーに限定されるものではない。



＜考案の効果＞

本考案は、以上説明したとおり防水カメラの外周を形成する前カバーはその一側端部がその端面をほぼ平面にし、その内面側に電池室を設け、該電池室の後方近傍に背蓋ヒンジ軸支持部を設けるとともにその間に壁を設けたことによりカメラを小形化して外形のすつきりしたものにし、その成形加工も簡単にできる効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係る防水カメラの横断面図、第2図はその底面図、第3図は防水カメラに用いる電池ホルダーの拡大斜視図、第4図(a)、(b)は従来例の前カバーの要部断面図である。

1 1 … 前カバー、11a … 一側端部、11b … 背蓋ヒンジ軸支持部、11c … 壁、1 2 … 背蓋、12a … ヒンジ軸、1 3 … 電池室、1 4 … 電池ホルダー、14a … 蓋、1 5 , 1 6 … パッキン

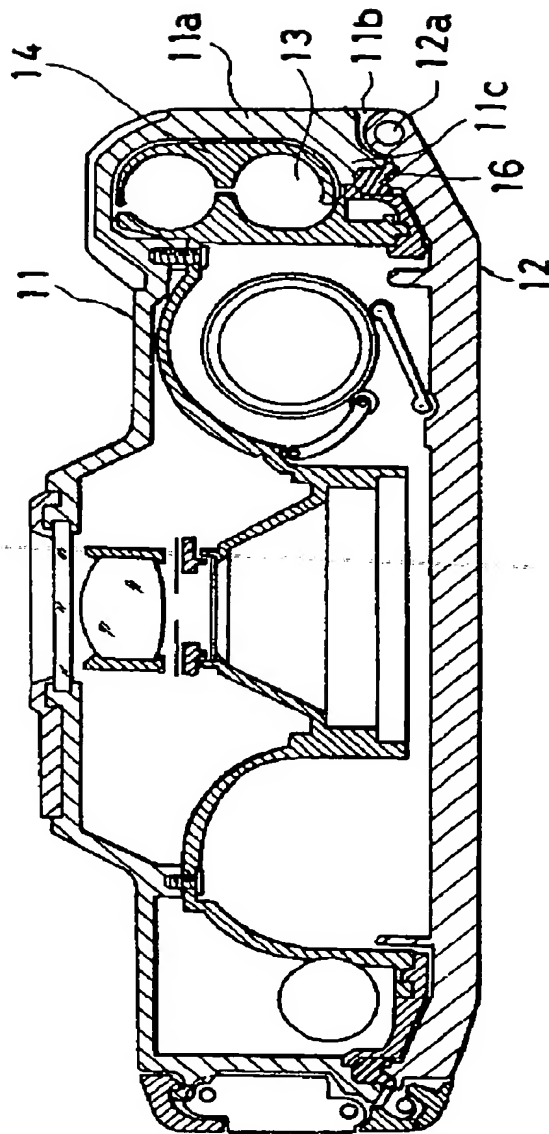
実用新案登録出願人 キヤノン株式会社

代理人 弁理士 田 村 光 治

876



第1図

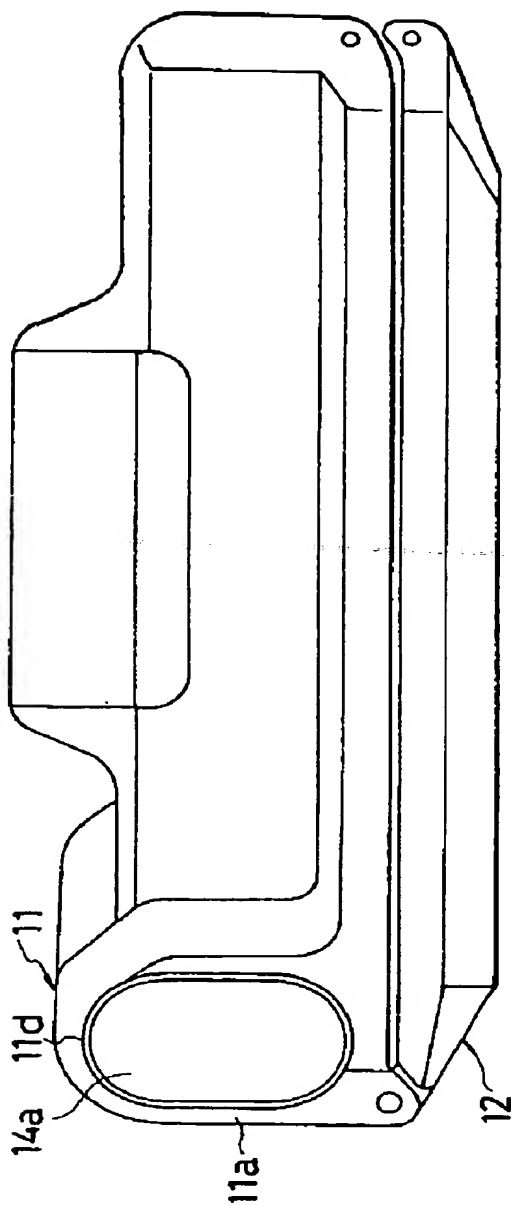


877

代理人 井理士 田村 亮 治



第 2 図



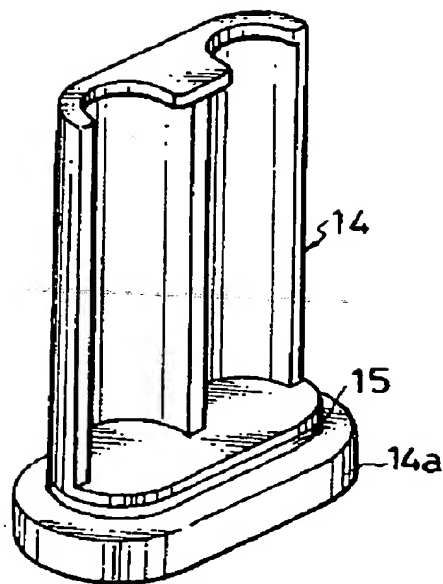
878

代理人 弁理士 田村 光 治



BEST AVAILABLE COPY

第 3 図



879

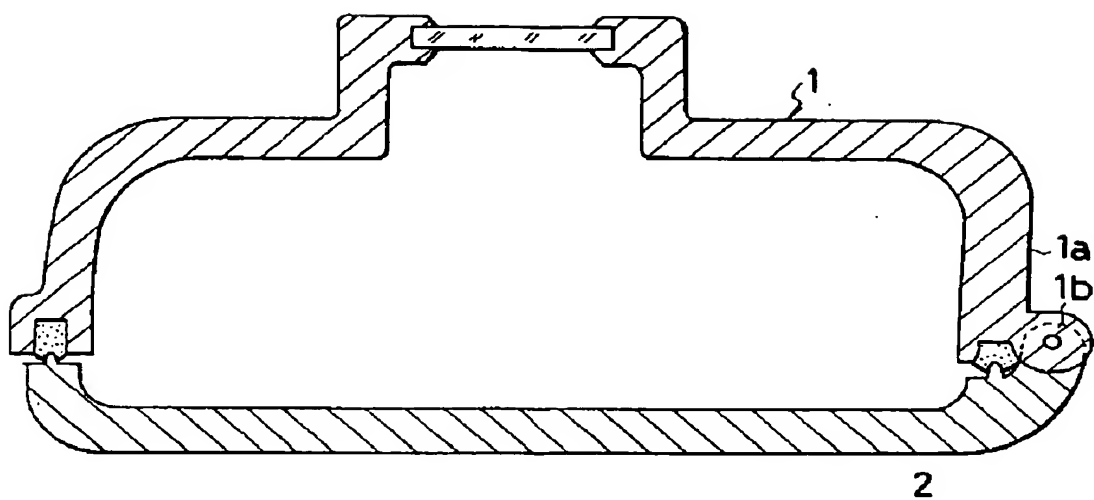
代理人 弁理士 田村光治

昭和61-50947

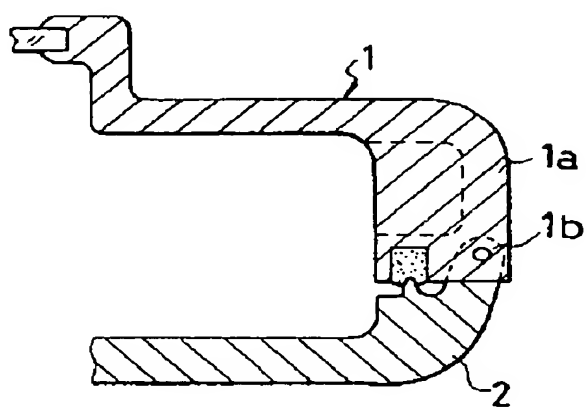


第 4 図

(a)

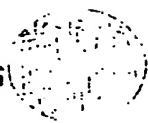


(b)



880

代理人 弁理士 田村 光治



BEST AVAILABLE COPY